

飛躍

HIYAKU

第446号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2024年12月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

2025年度東海大学附属学校推薦型選抜 381名が合格 おめでとう!

2025年度東海大学附属学校推薦型選抜381名が合格

東海大学では、社会的実践力を有した人材の育成を教育理念としており、この理念を実現する具体的な教育施策として、「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の4つの力の育成を教育目標に掲げています。この4つの力を身につけるために、特色あるカリキュラムと教育システムを用意しています。

ご存知の通り、本学は23学部62学科・専攻をもつ全国規模のスケールメリットを生かして、来年度も多くのキャンパスに本校の3年生が進学を予定しています。

さて、2024年12月2日(月)に東海大学附属学校推薦型選抜の合格発表があります。これで、4月の学園基礎学力定着度試験から始まり、児童教育学科、医学科、看護学科、航空操縦学専攻の適性審査を経て、11月の学園高大連携総合試験ならびに小論文試験などすべての試験が終了し、半年強にわたった一連の附属学校推薦型選抜も終了します。2025年度は381名の東海大学関係への進学が決定し、これは3年生全体の約82%に相当します。

合格した生徒は、大学指定の入学前学習に取り組みつつ、入学までに各自で必要な学力を付けておくようにしてください。

右に2025年度の合格者の状況を紹介します。



●東海大学進学者

合格先	合格者数
国際学部	31名
経営学部	34名
観光学部	19名
情報通信学部	18名
政治経済学部	23名
文学部	17名
文化社会学部	31名
法学部	9名
教養学部	13名
児童教育学部	15名
体育学部	15名
健康学部	20名
理学部	8名
情報理工学部	7名
建築都市学部	29名
工学部	55名
医学部	13名
人文学部	0名
海洋学部	19名
文理融合学部	2名
農学部	0名
国際文化学部	1名
生物学部	1名

●東海大学短期大学進学者

合格先	合格者数
ハワイ東海インターナショナルカレッジ	1名

部・同好会活動報告

中等部
吹奏楽部

第24回東日本学校吹奏楽大会 銀賞受賞!

最後のコンクールを終えて

3年A組 和氣 咲綾

私たち中等部吹奏楽部は、10月12日に茨城県の水戸市民会館にて行われた東日本学校吹奏楽大会に出場しました。私自身この大会が決まった時、嬉しさを感じるとともに東日本大会3年連続金賞のプレッシャーも感じていました。その中でも私は部長として部活動の士気を高めることはもちろん、コンサートミストレスとして部員の音楽的な技術の向上に努めました。本番前はさまざまな壁にぶつかりましたが、部員同士で切磋琢磨し、周りの仲間と家族の支えがあって自分に自信をつけることができました。本番では、いい緊張感の中で部員全員が全力を出して満足する演奏ができましたが、惜しくも金賞には届きませんでした。この悔しい気持ちは次へとつなげる糧にし、今後の自分の成長にもつなげられるように、これからのコンサートに向けて頑張っていきたいです。



男子
バスケットボール部
植垣 元為君

第78回国民スポーツ大会 東京都代表チームに選出!

貴重な経験

1年7組 植垣 元為

10月10日から佐賀県で開催された、国民スポーツ大会に東京都代表として出場させていただきました。初めに、このような経験をさせていただきとても感謝しています。このような経験ができるのも、周りの方々の手助けのおかげだと思っています。大会結果は思うような結果にはならず、自分としても思うようにプレーすることができませんでした。しかし、この経験を活かし、立ち止まらず、代表で習ってきたスキルなど、気持ちの面でも高輪台バスケットボール部に良い流れを持っていきたいです。そして今回の経験で満足せず、常に自分が人として、スポーツマンとして、高みを目指せるような気持ちで臨んでいきたいです。自分の行動や発言に責任を持ち、過ごしていきたいです。応援をありがとうございました。



高校
吹奏楽部

第72回全日本吹奏楽コンクール 金賞受賞!

全日本吹奏楽コンクールを終えて

3年1組 藤川 七美

私たち吹奏楽部は、10月20日(日)に行われた全日本吹奏楽コンクールでゴールド金賞を受賞しました。いつも全力でサポートしてくれる保護者の方々、日頃の学校生活を通して支えてくださった先生方、厳しく愛のあるご指導をしてくださった畠田先生をはじめとする顧問、講師の先生方、本当にたくさんの方々に支えられてこのような結果を得ることができました。音楽面だけでなく、精神面でも大きく成長することができたこの経験を生かし、11月の全日本マーチングコンテストや3年生の集大成である定期演奏会に向けて、部員一同全力で今後も取り組んでいきます。これからも応援をよろしくお願いいたします。



柔道部

関東高等学校選抜柔道大会 個人 山田 嘉人君 5位入賞

関東高校選抜柔道大会を終えて

2年3組 山田 嘉人

今回の大会は神奈川県横須賀市で行われました。私の出身地でもある横須賀市での大会で、5位に入賞することができました。自身の実力不足を痛感した大会ではありましたが、とても貴重な経験をすることができました。次戦は目標としている高校選手権大会があります。この大会は全国につながる大会なので、上位に行けるように頑張ります。これからは筋力やスピードを強化し、さらに技術を磨き地力を向上させ、目標とする試合で勝てるよう精進したいと思います。試合場で応援してくれた先生方をはじめ、家族や部員の仲間にはとても感謝しています。柔道部一同、個人戦・団体戦共に優勝を目指しますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



部・同好会活動報告

高校
吹奏楽部

第30回日本管楽合奏コンテスト全国大会 特別演奏

日本管楽合奏コンテスト全国大会を終えて

3年2組 山本 葵

昨年度行われた日本管楽合奏コンテスト全国大会にて、最優秀グランプリ賞・文部科学大臣賞を受賞したことで、今年度は同大会に特別演奏として出演させていただきました。今回参加したB編成は、35人という少ない人数で難曲に挑戦しました。練習をしていくなかでさまざまな困難がありましたが、メンバー全員で切磋琢磨し、本番では最高の演奏をすることができました。また、高い技術や集中力が求められる演奏箇所でも、一人ひとりが高い意識を持って演奏することができました。このような良い本番を迎えられたのは、日頃から私たちを応援してくださっている先生方や保護者の方々のお力添えがあったからです。これからも感謝の気持ちを忘れずに、練習に励んでいきたいと思えます。



SSH活動報告

10月23日に1年生のサイエンス基礎「国語表現演習」において、東京海洋大学の佐々木剛先生と学生の皆さんと共に、ウォータース竹芝で実習を行いました。

課題解決の手段

1年10組 兵頭 拓実

私は、サイエンス基礎の国語表現演習の授業で行われた、東京海洋大学の方々とウォータース竹芝での活動で十字モデルについて学びました。十字モデルは現状理解、課題発見、仮説設定、仮説検証の方法、結果、考察後の展開と進んでいく考え方で、今回はこれを使ってそれぞれの班で大学生の方々と一緒に課題解決をしました。これはSSHの2年生で行う課題研究にも活用できる考え方で、これからも理解が薄まらないようにしたいです。ほかにも、大学生との交流で大学生生活のイメージが湧き、参考になりました。また、ウォータース竹芝が東京に存在する貴重な干潟だということを知り、そんな貴重な環境を守っていかねばいけないと思いました。



ウォータース竹芝での1枚



活動の様子



学生との交流

2024年度学校運営方針

実践目標

情報化時代に即応し、自らが情報発信基地になれるよう、 教職員・生徒の情報教育の推進を図る

今日では、ほとんどの人がスマートフォンを持っており、手軽に情報を手に入れることができます。また、学校の課題、受験、就職、仕事等においても、インターネットを活用して、適切に情報を活用、発信することができる能力が求められています。

インターネットを通して、たくさんの情報を手軽に手に入れることが可能になったことに合わせて、情報を実践的に有効に活用するためには、「情報リテラシー」を身につけることが重要です。情報リテラシーとは、情報を適切に収集(必要な情報を効率的に探し出す能力)、評価(情報の信頼性や正確性を判断する能力)、理解(得た情報を正しく理解し、分析する能力)し、それを効果的に活用(情報を適切に整理し、問題解決や意思決定に活かす能力)する能力のことです。生徒たちは「情報リテラシー」については、「情報」の授業でももちろんのこと、さまざまな授業でインターネットを活用する際に、それらの能力を身につけることができるように指導を受けると同時に、適切に活用することの重要性を学んでいます。

本校では、2015年度からタブレットPCを授業で生徒が一人一台利用できる環境を実現し、2019年度からはBYODシステムを採用、教室のICT環境としては、現在、プロジェクター2台、スクリーン2面、液晶電子黒板1台が各教室に設置されています。この環境を活用して、多くの授業で、タブレットPCを使い、自分の考えをまとめ、グループで共有整理して、それを全体発表するなど自分の考えを発信する場面を多く取り入れた授業を展開しています。高校1年生の「高校現代文明論」、2年生、3年生で実施する「総合的な探究の時間」の授業において自分でテーマを設定して、情報を集め、調査・考察して、それらをまとめ発表することを通して、情報を活用する力、発信する力の育成に力を入れています。

また、ICTを活用した教育の次の段階として、教員は「生成AI」を活用した学習方法を研究するとともに、生徒たちが「生成AI」を適切かつ有効に活用する力を身につけ、目まぐるしく変化する情報化時代に取り残されることなく、社会で活躍できるように情報教育を推進していきたいと考えています。

生徒たちは、学校の授業の場だけでなく、個人的な場でもSNS等で情報を手に入れたり、発信しています。「情報リテラシー」について、正しく理解していないと、不正な情報を利用してしまい詐欺等の被害に遭ったり、不正な情報と知らずに発信してしまい、トラブルに巻き込まれる可能性もあります。インターネットは使い方を誤ると他人を傷つけたり、自分の将来に取り返しのつかない傷を残すこともあります。学校でも繰り返し指導してまいりますので、ご家庭でもご指導にご協力をお願いいたします。



保護者向け普及啓発リーフレット(こども家庭庁作成)

「ネット・スマホ活用世代の保護者が知っておきたいポイント」

URL <https://www.cfa.go.jp/policies/youth-kankyuu/leaflet>



11月から着任された職員のご紹介

橋本 成人 事務長



11月1日付で法人本部学園法務室より転動してまいりました橋本成人と申します。私自身転勤が多く、病院や高等教育部門・高校中学と本校で9つ目の勤務先となります。初等中等教育部門としては付属相模高校と付属大阪仰星高校に次いで3つ目になります。16年前に隣の品川キャンパスを短大から情報通信学部に変更する際の起ち上げ時に4年間勤務したことをとても懐かしく思い出します。一日も早く先生方のお名前を覚え、コミュニケーションが計れればと思っております。毎日活気あふれる生徒の姿を見て、私自身とても元気をいただいています。皆さん、よろしくお願いいたします。

第23回 高校体育祭開催

応援も勝負も全力の体育祭

体育祭実行委員長 3年4組 中本 湧貴

皆さん、体育祭お疲れさまでした。実行委員やスタッフの皆さんが協力してくれたおかげで、無事に全競技を終えることができました。特にリレーでは、クラスや学年の垣根を越えて全員が一丸となって盛り上がっている様子を見て、感動しました。全員が楽しんでいる姿を見ることができ、実行委員長をやって良かったと心から思いました。そして、担任の先生や各団体顧問の先生、体育祭実行委員全員に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



2年



1・2・3年



1年



台風の目

綱取り合戦

3年



1年



2年



2・3年



3年



2年



1年

大玉運び

玉入れ



1年



3年



2年



3人4脚

部・同好会対抗リレー



2・3年

結果	優勝 赤組	準優勝 緑組
高1	4組 / 10組	1組 / 8組
高2	1組 / 9組	3組 / 6組
高3	4組 / 6組	2組 / 7組

★写真協力：写真部
 1年 伊藤 遼俊さん、柴本 莉翠さん
 2年 小河原 芽生さん、宋 咲京さん、森 萌穂美さん
 3年 小山 潤太さん

応援

第23回 高校体育祭開催



10月31日、秋雨の合間の晴天下で、みんな晴れやかな表情で汗を流していました。各学年ごとの感想を紹介します。多くの保護者の皆様、さいたま総合グラウンドまで応援に来ていただき、ありがとうございました。



1年4組 瀬戸口 昂汰

私は体育祭を通して、クラス全体で協力することで、クラスの仲がより一層深まったのではないかと思います。メンバー決めの期間から各々の得意不得意を分析して、勝利に向けて出場者を決め、クラス全員の士気を高めていきました。迎えた体育祭当日は、自分のクラスだけでなく、10組とも協力し、数々の競技で良い戦績を残すことができました。今回の体育祭ではクラス、学年の仲がより深まったと思います。この経験を通して、これからの行事、剛健旅行やスポーツ大会につなげていけるよう、日々の学校生活でも、クラスで協力していきたいです。

1年10組 山崎 妃奈乃

初めての体育祭で優勝できたことは、私にとって忘れられない思い出になりました。中学校とは違い事前の練習がなかったので、とても不安でしたが、本番ではお互いに協力して競技に臨むことができました。特に学年別リレーでは、今まで関わったことがないクラスの人々と話すことができました。バトンパスの瞬間は緊張しましたが、無事につなぐことができ、ホッとしました。1年10組という特性を生かして、来年も優勝を目指せるように、これからさらにクラスの仲を深めていきたいと思っています。

2年1組 佐藤 凜

私たち2年1組は、部活動で忙しい生徒が多いこともあり、クラスで話す機会が少なく、お互いの関わりがあまり深くありませんでした。加えて運動に前向きな生徒も多くありませんでした。そこで、1日という短い時間ですが、楽しんで体育祭に参加することをクラスの目標にしました。その結果として優勝できたことに正直驚いています。印象的だったのは、クラスメイトの活躍している姿をみんなで応援していたことです。そして、今回のことをきっかけにクラスの仲が深まりました。これからも、クラスの絆と学年の絆を超えた活動を大切にしていきたいと思っています。

2年9組 山本 駿

体育祭を通してクラスが一致団結することができたと思います。各々が種目に対してしっかりと向き合い、全力で取り組んでいました。種目に出ない人は、クラスメイトや赤組の仲間を応援していてとても良かったと思います。高輪台の体育祭は事前練習がなく、本番の一発勝負です。その中で待ち時間に作戦を立てたり、練習をしたりするなど、体育祭に対する熱量が試されたと思います。その結果、みんなの頑張りによって優勝することができました。この体育祭でクラスがまとまったと思うので、これからの行事も一致団結して取り組んでいきたいと思っています。

3年3組 矢吹 瑛斗

皆さん、体育祭お疲れさまでした。最後の体育祭はどうでしたか？私は1、2年の時に比べて各競技に全力で取り組むことができ、心から楽しめた体育祭になりました。特に印象に残った競技は、綱取り合戦と部・同好会対抗リレーです。綱取り合戦は、男女共に本気で取りに行く姿が、見ていて面白かったです。部・同好会対抗リレーでは、サッカー一部の応援の迫力や、陸上競技部の圧倒的な走りに大盛り上がりしました。体育祭は、仲間と一緒に過ごすことで、協力、成長することができる貴重な機会です。3年生は人生最後の体育祭でしたが、とても良い思い出になりました。1、2年生は来年の体育祭を全力で楽しんでください。

3年6組 中河 優

私たちのクラスはとても仲が良く、体育祭では団体競技が多いため、いろいろな競技で上位を取ることができました。特に、綱取り合戦、リレーでは男女共に1位を取ることができ、私たちの仲の良さを存分に発揮することができました。また競技だけではなく、クラスが一丸となって応援することができて良かったです。高校生活の行事は残り少なくなってしまいましたが、今回の体育祭も思い出に残る行事の1つとなりました。高校生活もあと少しですが、体育祭でまたさらに仲が深まったと思います。クラスのみんなと残りのすべての行事を全力で楽しんでいきたいです。

学年だより 中1



建学祭

10月12日、13日に建学祭が行われました。中等部1年生は、2人1組になり、江戸をテーマにさまざまなことを調べて紙芝居にして発表しました。多くの人の前で発表する機会が初めてだったため緊張した様子でしたが、立派にやり遂げることができました。

初めての経験

A組 貫井 楓

中等部に入り、初めての建学祭を体験しました。おもてなしをするという目線を大切に、私たちは精いっぱい発表することができました。私は部活動のシフトもなかったので、学年のシフトに集中して完璧な発表ができるように、たくさん練習しました。そのおかげか、当日は言葉に詰まることなくスムーズに伝えることができました。聞いてくださった人たちから「わかりやすかった」という言葉を言ってもらえたとき、本当に嬉しかったです。先輩方のクラスも回り、先輩方が笑顔で楽しそうに接客する姿を見て、勉強になりました。モノづくりのときには、丁寧にわかりやすく説明してもらい、工作が苦手で私でもうまく作ることができました。

この建学祭を通して、いろいろ学んだこと、そしてみんなで一丸となって一つの物を作る経験のすべてが、私の宝になりました。本当に楽しい建学祭になりました。

初めての建学祭

B組 田谷 希朗仁

私は、昨年までは楽しむ側だったけれど、今年は初めて出展者として建学祭に参加しました。そこで、今まで知らなかった大変さを感じました。発表するものについて、いざ調べてみるとたくさんの情報があり、それを人に伝えるまでにたくさんの工夫が必要なことに気付きました。まず準備では、調べ学習をして、情報をまとめ、パワーポイントにまとめました。そして原稿も作成し、ペアと役割分担して良いものを作り上げました。発表の時には、リハールで先生から指導を受けたことを活かしながら改良をしていきました。当日は、来てくれたお客さんに「よくまとめられているね」「わかりやすかった」という言葉をかけてもらい、頑張って良かったと思えました。

来年は、今年の経験を活かし、今年よりもさらに良い建学祭を自分たちが作り出すという意識を持って取り組みたいです。

来年に向けて

A組 志村 蒼空

私たちのグループは、「江戸の食文化」について調べて発表しました。学校では、図書館の本やインターネットを使って調べ学習をしました。さらに、夏休みを使って、日本橋に江戸時代から続く老舗の寿司・うなぎ・割烹の3軒を見に行きました。帰ってきてから、実際に見に行ったお店について、さらに詳しく調べました。

建学祭当日の発表では、最初は緊張して声が小さくなってしまったけれど、2回目からはせっかく調べたのだから聞いてくれる人にきちんと伝えたいと思い、声を大きく出して発表することができました。お客さんが来ないとき、同じクラスの子や同じフロアで出展していた先輩方は宣伝や呼び込みをしていました。

来年の建学祭では、今年できなかった呼び込みや宣伝を積極的にしたいです。また、お客さんの立場に立って発表をわかりやすく、聞き取りやすい形でできるようにしたいと思います。

楽しませる側に立って

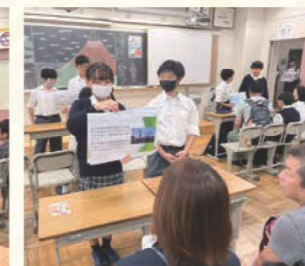
B組 新居 綾

建学祭と聞いて、思い浮かべたのは、いろいろな出し物を回って自分が楽しむということでした。けれど、建学祭の開会式の時、校長先生からの「体育祭やスポーツ大会は君たちが主役だけど、建学祭はあなたたちが来た人を楽しませる行事」という話を聞いて、私たちが楽しむのではなく、来た人に楽しんでもらうということに考えが変わりました。発表物を作るときは、見やすく楽しんでもらうために、字を大きくしたり、写真やイラストを使ったりと工夫をしました。

建学祭当日、私たちは徳川家康について発表しました。聞いてもらった人から「へーそうなんだ」「知らなかった」という言葉を聞いて嬉しかったです。私自身も、ミサンガや入浴剤作りを他のクラスで楽しむことができました。今年の経験を活かして、来年の建学祭も自分だけが楽しむのではなく、「楽しませる」ということを心にとめておきたいです。



クイズを入れた楽しめる発表



たくさんの人が来てくださいました



緊張しながら頑張りました



力を合わせて発表!

学年だより 中2

建学祭

今年度の建学祭で、中2は東海大学の各学部について調べて壁新聞をつくり、東海大学に関するクイズ大会をしました。クイズの問題作成や、海をイメージした内装など、準備から当日の運営、片付けまで全員が協力して行うことができました。建学祭において学年や中等部全体をまとめ、引っ張ってくれた建学祭実行委員の6人の感想を紹介합니다。

A組

高橋 悠道

私が今回の建学祭で頑張ったことは建学祭の門づくりです。建学祭の門づくりでは、スポンやセーターを汚しながら頑張って完成させました。

小さなトラブルもあり大変なことも多かったけれど、今となっては良い思い出です。門が完成したときの達成感はとても大きく嬉しかったです。来年の建学祭でも、今年と同じようにみんなで頑張っていきたいと思いました。来年もみんなで協力して、今年を超えられるような良い建学祭にしたいです。

長縄 海夕

去年の準備期間はClassiの確認が十分にできておらず、シフトを忘れてしまったことがありました。今年はその反省を生かして確認を注意深く行い、当たり前のことではありますがシフトの仕事をやりきることができました。準備日はダンス部のリハーサルもあって常に委員会にいることはできませんでしたが、ほかの委員の協力により無事に準備を終えることができました。来年は中等部生最後の建学祭なので、みんなと協力して建学祭を終えたいです。

渡会 秀斗

今年の建学祭では、準備日に近所のお店などに建学祭についてご挨拶に行くのがとても楽しかったです。振り返って良かった点は、誰かがシフトに遅れてしまっても、その場にいた人で協力してみんなが積極的に働いていたことです。このような臨機応変な対応ができたから運営が成り立ったと思います。また、今年はアリーナへの列の中で、割り込みが起きないように呼びかける仕事をしました。これによってトラブルがなくなり、安全な建学祭になったと思います。来年は、今年よりも良い建学祭にしたいと思います。

B組

押田 陸

今回の建学祭では、私は準備日に展示部門での仕事を頑張りました。先輩方が作ってくださった展示物の後片付けや掃除を精いっぱいやりました。廊下の汚れが一つも残らないように意識をしながら、雑巾がけをしてみんなで掃除をしました。来年の建学祭では、この高輪台の中等部を代表する立場として建学祭実行委員会として動くので、誰よりも仕事をこなし、「全員」が楽しむことができる建学祭を「全員」で作っていくことを目指して頑張っていきたいです。

小安 正美

今回の建学祭は、昨年に引き続き規制をかけずに来場者を迎えるスタイルとなりました。私は、準備日の2日間と建学祭当日の2日間の合計4日間、本部の仕事をやりきりました。10時の開門から16時の終了時間まで、本部でほとんどの時間を過ごし、建学祭終了後も各フロアの見回りや清掃などを行いました。今年の建学祭は小さなトラブルをみんなで協力して解決できたので、大きなトラブルにつながることもなく終わられました。およそ5,000人もの方に来場していただき、とても良い建学祭になりました。来年も建学祭が大成功で終わるよう、てきぱきと働いていきたいです。

渡部 陽太

今年の建学祭実行委員として頑張ったことは、塗装などの監視です。私は展示部門として4日間動きました。展示部門の仕事は、各クラスや団体・部活動などの展示における装飾の塗装を指導したり、監視したりするという仕事です。今年の実行委員の仕事で一番大変だった仕事は、各団体がブルーシートの上で塗装作業をしたあとのブルーシートの汚れを落とす作業です。来年は中等部最後の建学祭実行委員なので精いっぱい頑張って、最高の建学祭にしたいです。



クイズの司会者



素敵な外装



大盛況でした

学年だより 中3

中等部最後の建学祭「世界スゴロク」～世界を旅して～

中等部生として最後の建学祭は、今までの集大成として発表、接客の仕方をレベルアップさせて、教室をスゴロクに見立てて世界各国の文化や伝統をゲーム形式でご案内しました。どの生徒も自分の得意分野を活かし、皆で協力して頑張った様子をご覧ください。

中等部生最後の建学祭

B組 稲田 雅紀

中等部生活最後の建学祭を終えて、この3年間で学んだことを活かすことができました。接客ではお客様が楽しめるように明るく、テンションを少し高くして接しました。その結果、お客様がクイズで正解した時の喜びが自分のことのように感じることができました。展示ではお客様が興味を示しやすいように、イラストを少し多くしたり、文字を少なくして読みやすいようにいろいろ工夫をしました。そのおかげが問題を出す時に読みやすくなり、噛むことなくスムーズに説明することができ、より楽しんでもらえることができました。

接客の難しさ

A組 大瀧 眞博

私たちの出し物は「世界スゴロク」でクイズをやったのですが、どのように説明するか戸惑ってしまうことがたくさんありました。これまでは1対1でお客様に接することはやっていなかったのですが、今年は一人でやらないといけないのでとても大変で、接客はとても難しいと感じました。私は将来接客業に携わる可能性があるため、人との対応は慣れておかなければなりません。建学祭ではこういうことを学ぶ場でもあるということを確認しました。中等部生では今年が最後の建学祭ですが、高校でも頑張っていきたいです。

チームワークの素晴らしさ

A組 齋藤 璃空

私たちは「世界スゴロク」のアフリカゾーンを担当しました。B組の人ともグループになってアフリカについて調査し装飾をしました。一つの目的に向かってアフリカを表現することやみんなで案を出し合って作業を進めました。準備中にトラブルもありましたが、なんとか修正して完成しました。本番でもシフトごとに分かれて複数人でおもてなしをし、お客様に満足してもらえるよう努めることができました。今回のことで、仲間と意思疎通し合って行動することが大切で、それが何よりも楽しいことでもであると学習しました。

建学祭を振り返って

B組 椿 宏亮

建学祭を振り返って、自分はいろいろなことをしました。まず、今回の建学祭は「世界スゴロク」ということで、教室を世界のいろいろな地域に見立て、来てくれた方に旅行を楽しんでもらいました。自分がスタッフをやった時は、自分より小さい子供や大人などいろいろな人が来てくれましたが、自分は来てくれた人に合った対応をできたと思います。また、ほとんどの人が「楽しかった」という言葉を言ってくれたので嬉しかったです。今回の建学祭はとてもいいものになったのではないかと思います。

最後の建学祭

A組 田中 比依菜

私は中等部最後の建学祭で今まで3回やってきた経験を活かし、どうしたら自分も楽しめてお客様も楽しめるように作れるかを考えました。その結果、景品を作ることで自分たち作る側も楽しめて、お客様側もクイズにより真剣に取り組んでもらえ、どちらにもメリットになり、笑顔になることができると感じました。また、他クラスの出し物を見て回った時に、やっぱり高校生の出し物は格が違うなと思いました。次の建学祭は高校生になって初めての建学祭なので、今年よりも一層レベルが高いものを作り出したいと思いました。

建学祭での思い出

B組 中山 俊隆

私は、中等部最後の建学祭で学んだことが2つあります。1つ目は、しっかり話す勇気です。私は人と話すのがあまり得意ではないので、緊張していました。たくさんの方が来場してくれたので、声をしっかり出さないとはいけませんでしたが、勇気を出して話すと、ちゃんと反応してくれたので、嬉しかったです。これからは行事ではしっかり大きな声で話せる自信になりました。2つ目は先輩方の出展の仕方です。私たちの出し物よりもクオリティーも、楽しさも勝っていたので、すごいと思いました。高校生になったら先輩方の真似をして、皆に楽しんでもらえるものを作り上げたいと思いました。



細かい所まで頑張って準備中



受付の国旗作りも頑張りました



丁寧に接客中です



最後にビーズのキーホルダーのお土産

お知らせ

付属高校生のためのヨーロッパ研修旅行

12月18日(水)～12月28日(土) 本校から13名が参加

他の付属校の生徒とともに学園建学の源流であるデンマークを訪れ、「建学の精神」の原点に触れ、その他ドイツ、オーストリア、フランスを巡り、西洋史に登場する建造物等に直接触れ、国際的な感覚を高める研修です。
(2020年度より新型コロナウイルスの世界的な蔓延やロシアによるウクライナへの侵攻の影響により中止しておりました。)

東海カルチャーセミナー開催

12月21日(土) 13:00～(本校アリーナ)

講師：元女子バスケットボール日本代表 おおさき ゆか 大崎 佑圭 先生

吹奏楽部 定期演奏会

中等部
(第16回)

日時：2024年12月28日(土) 13:30開場 14:00開演
会場：赤坂区民センター区民ホール(地下鉄赤坂見附駅下車、青山一丁目駅下車徒歩10分)
入場料：無料(入場券事前配布:詳細は顧問 新井または吹奏楽部員まで)

高校
(第35回)

日時：2025年1月6日(月) 12:00開場 12:45開演
2025年1月7日(火) 17:00開場 17:45開演
会場：ミューザ川崎シンフォニーホール
入場料：A席 2,500円 B席 2,000円 C席 1,500円(全席指定)

行事予定

※予定が変更になる場合があります。1月は中等部入試、高校入試の出願受付が始まります。詳しくは本校HPをご覧ください。

December 12月

January 1月

- 2日(月) 付属推薦合格発表(高3) 生徒自宅学習日
- 3日(火) 後期中間試験(中等部:～4日、高校:～6日)
- 5日(木) スポーツ大会(AM)・キャリア教育(PM)(中等部)
- 6日(金) 校外活動(中等部)
- 7日(土) GTEC受検日②(高校)
- 8日(日) 東海大学湘南キャンパス見学研究会(保護者対象)
- 9日(月) 学校説明見学会⑥(中等部)
- 9日(月) 朝礼・短縮授業 特別講座開始(高3)
- 10日(火) 校医相談日⑧
- 11日(水) 専門医によるカウンセリング⑥
- 14日(土) 合唱祭(中等部) 付属推薦入学試験合格者説明会(高3)
- 15日(日) 高校入試相談(生徒自宅学習日)
- 16日(月) 高校入試相談(生徒自宅学習日)
- 17日(火) 答案返却日
- 18日(水) 付属高校生のためのヨーロッパ研修旅行(希望者:～28日)
- 19日(木) 振替休日(12/15分)
- 21日(土) 3時間授業 東海カルチャーセミナー(13:00～)
- 24日(火) 冬期休暇前諸注意・大掃除(3・4限目)
- 25日(水) 冬期休暇(～1月6日)・冬期講習(～27日)

- 1日(水) 元日
- 6日(月) 新春懇親会
- 7日(火) 朝礼・短縮授業
月曜の授業
- 12日(日) 学校説明見学会⑥(中等部)
- 13日(月) 成人の日
- 14日(火) 校医相談日⑧
- 15日(水) 専門医によるカウンセリング⑦
- 22日(水) 高校推薦入学試験(生徒自宅学習日)
- 23日(木) 高校推薦入学試験合格発表日(Web)
- 25日(土) 漢字検定③
- 27日(月) 生徒による授業評価アンケート④
- 28日(火) 特別時程(中1・2、高校:～30日)
- 卒業試験(中3:～30日)
- 31日(金) 中等部入学試験準備
特別講座終了(高3)

編集後記

かつての日本は社会主義の実現に最も成功した国と揶揄されるほど、「一億総中流」という感覚が多くの国民に浸透していました。その後、日本経済はバブル崩壊やリーマンショックなどを経験し、以降「失われた〇〇年」から抜け出すことができていません。社会学者の山田昌弘氏が提唱した「格差社会」がユークキャン新語・流行語大賞のトップテンに選ばれたのは2006年のことですが、この文章が掲載されるころには今年の大賞も発表されているはず。希望に満ちた未来を思い描くことのできるような言葉が選出されていることを願うばかりです。(の)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <https://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>